

ヨハネ受難曲 (JOHANNES PASSION BWV245)

マタイ受難曲と並び称されるヨハン・セバスティアン・バッハ(1685～1750)の代表作。

1724年4月7日初演。1723年5月にライプツィヒの聖トマス教会のカントール(音楽指導者)に就任したバッハが、初めて迎えた復活祭前の聖金曜日(1724年4月7日)の礼拝のために作曲し上演した。バッハは亡くなる前年の1749年までたびたび改訂して再演しており、彼にとってかなり思い入れの強い曲だったと考えられている。

台本の構成は、マタイ受難曲と同じように聖書の中から引用された聖句を朗読するエヴァンゲリスト、聖書の登場人物の台詞を歌う複数のソリスト、聖書の群衆の言葉を歌う合唱。また、受難の現場を直接目撃しているような視点で描かれる自由詩によるアリア、アリーゾと大合唱曲。そしてバッハの時代の教会で受難物語を聴く参列者の視点で、参列者の信仰心を問う内容の合唱によるコラールという構成になっている。

ソリストが多く出演するマタイ受難曲に比してヨハネ受難曲は合唱の役割が重要で、合唱による自由詩とコラールが当時のキリスト教徒達の心に印象的に訴えかける作品となっている。

指揮：本山秀毅 もとやまひでき



京都市立芸術大学、フランクフルト音楽大学合唱指揮科卒業。バッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動が続ける。「バッハアカデミー関西」を設立し、「教会暦によるカンタータシリーズ」によりバッハの声楽作品の全曲演奏に取り組んでいる。1995年にはオレゴンバッハフェスティバルに、また2002年5月にはライプツィヒバッハフェスティバルに招聘され、バッハのミサ曲などを演奏し好評を博した。また一般・大学合唱団の客演指揮者、合唱指導法などの講習会の講師、全日本合唱コンクールをはじめとするコンクールの審査員として合唱音楽の普及にも努めている。同時に関西におけるプロ合唱団とオペラ作品の合唱指揮にも活躍している。第15回藤堂音楽褒賞、2001年京都市芸術新人賞受賞。指揮をヘルムート・リリング、ヴォルフガング・シェーファー・ウベ・グロノスタイの各氏に師事。現在、大阪音楽大学教授、びわ湖ホール声楽アンサンブル専任指揮者。京都バッハ合唱団主宰。

■名古屋市民コーラス

創立1959年5月。1994年常任指揮者に長谷順二氏を迎えてからオーケストラ付きの合唱曲に取り組んでいる。現在団員200名。団員は会社員、公務員、主婦、学生等多様で年齢も各世代に亘っている。

選曲から企画運営まですべて団員の話し合いで進められ、じっくり一年かけて密度の高い練習を重ね演奏会に臨んでいる。

2001年3月愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。同年3月愛知県合唱連盟より藤井賞受賞。



2014年創立55周年記念 ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」

《最近の演奏活動》

- 2006 第36回定期 ワグナー「オペラ合唱曲の夕べ」
指揮：飯森範親 セントラル愛知交響楽団
- 2007 第37回定期 ヴェルディ「レクイエム」
指揮：山下一史 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2008 第38回定期 メンデルスゾーン オラトリオ「聖パウロ」
指揮：下野竜也 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2009 創立50周年記念 J.S.バッハ「マタイ受難曲」
指揮：飯森範親 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2010 第40回定期 ハイドン オラトリオ「四季」
指揮：鈴木秀美 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2011 第41回定期 ドヴォルザーク「スターバト マーテル」
指揮：寺岡清高 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2012 名古屋マーラー音楽祭第2部参加「千人の交響曲」
名古屋銀行チャリティーコンサート出演プーランク「グローリア」
- 2013 第42回定期 ヴェルディ「ナブッコ」
指揮：柳澤寿男 名古屋フィルハーモニー交響楽団
トヨフジ ボン ボヤージュコンサート出演ベートーヴェン「第九」
- 2014 世界平和コンサートへの道名古屋公演 ベートーヴェン「第九」
指揮：柳澤寿男 バルカン室内管弦楽団 他
創立55周年記念 ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」
指揮：山下一史 名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 2015 第44回定期 イギリス宗教音楽の饗宴
ヴォーン ウィリアムズ「ドナ ノービス パーチェム」他
指揮：藤岡幸夫 名古屋フィルハーモニー交響楽団

